子どものこころの発達研究センター

１　構　成　員

	平成 25 年 3 月 31 日現在
教授	2 人
准教授	0 人
講師（うち病院籍）	0 人　　（0 人）
助教（うち病院籍）	0 人　　（0 人）
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	13 人
医員	0 人
研修医	0 人
特任研究員	1 人
大学院学生（うち他講座から）	2 人　　（0 人）
研究生	0 人
外国人客員研究員	0 人
技術職員（教務職員を含む）	0 人
その他（技術補佐員等）	9 人
合計	27 人

２　教員の異動状況

森　　則夫　（教授 兼 浜松センター長）　（平成 8 年 4 月 1 日～現職）
武井　教使　(教授)　（平成 19 年 4 月 1 日～現職）
辻井　正次　(客員教授)　（平成 18 年 4 月 1 日～現職）
土屋　賢治　(特任准教授)　（平成 19 年 4 月 1 日～現職）
鈴木　勝昭　(特任准教授)　（平成 20 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月末日）
松﨑　秀夫　(特任准教授)　（平成 22 年 4 月 1 日～平成 24 年 10 月末退職）
松本かおり　(特任助教)　（平成 19 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月末日）
岩田　圭子　(特任助教)　（平成 20 年 2 月 16 日～平成 24 年 10 月末退職）
Anitha A.Pillai　(特任助教)　（平成 20 年 4 月 1 日～現職）
中島　俊思　(特任助教)　（平成 21 年 4 月 1 日～現職）
望月　直人　(特任助教)　（平成 21 年 10 月 1 日～現職）
染木　史緒　(特任助教)　（平成 22 年 9 月 1 日～平成 24 年 11 月末日退職）
伊藤　大幸　（特任助教）　（平成 23 年 4 月 1 日～現職）
髙柳　伸哉　（特任助教）　（平成 23 年 4 月 1 日～現職）
野田　　航　（特任助教）　（平成 23 年 4 月 1 日～現職）
大嶽さと子　（特任助教）　（平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月末日退職）
本田麻衣子　（特任助教）　（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月末日退職）
小俣　　圭　（特任助教）　（平成 23 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月末日）

３　研究業績

数字は小数２位まで。

	平成 24 年度
（１）原著論文数（うち邦文のもの）	46 編　（32 編）
そのインパクトファクターの合計	66.02
（２）論文形式のプロシーディングズ及びレター	3 編
そのインパクトファクターの合計	0.00
（３）総説数（うち邦文のもの）	8 編　（8 編）
そのインパクトファクターの合計	0.00
（４）著書数（うち邦文のもの）	9 編　（8 編）
（５）症例報告数（うち邦文のもの）	6 編　（5 編）
そのインパクトファクターの合計	4.10

（１）原著論文（当該教室所属の者に下線）

Ａ．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Suzuki K, Sugihara G, Ouchi Y, Nakamura K, Futatsubashi M, Takebayashi K, Yoshihara Y, Omata K, Matsumoto K, Tsuchiya KJ, Iwata Y, Tsujii M, Sugiyama T, Mori N.　Microglial activation in young adults with autism spectrum disorder. JAMA Psychiatry. 70(1):49-58, Mar 2013【精神医学】[12.00]

2. Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Yagi A, Inada N, Kuroda M, Inokuchi E, Koyama T, Kamio Y, Tsujii M, Sakai S, Mohri I, Taniike M, Iwanaga R, Ogasahara K, Miyachi T, Nakajima S, Tani I, Ohnishi M, Inoue M, Nomura K, Hagiwara T, Uchiyama T, Ichikawa H, Kobayashi S, Miyamoto K, Nakamura K, Suzuki K, Mori N, Takei N.: Reliability and validity of autism diagnostic interview-revised, Japanese version. J Autism Dev Disord. 43(3):643-62, 2013【精神医学】　[3.34]

3. Tsuchiya KJ, Tsutsumi H, Matsumoto K, Takei N, Narumiya M, Honda M, Thanseem I, Anitha A, Suzuki K, Matsuzaki H, Iwata Y, Nakamura K, Mori N; H. B. C. Study Team. Seasonal variations of neuromotor development by 14 months of age: Hamamatsu Birth Cohort for mothers and children (HBC Study). PLoS One. 7(12):e52057, 2012【精神医学】[4.10]

4. Anitha A, Nakamura K, Thanseem I, Yamada K, Iwayama Y, Toyota T, Matsuzaki H, Miyachi T, Yamada S, Tsujii M, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Iwata Y, Suzuki K, Ichikawa H, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N.: Brain region-specific altered expression and association of mitochondria-related genes in autism. Mol Autism. 3(1):12, 2012【精神医学】[5.33]

5. Anitha A, Nakamura K, Thanseem I, Matsuzaki H, Miyachi T, Tsujii M, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Mori N.: Downregulation of the expression of mitochondrial electron transport complex genes in autism brains. Brain Pathol. 2013 May;23(3):294-302.　【児童精神医学】　[6.60]

6. Anitha A, Thanseem I, Nakamura K, Yamada K, Iwayama, Y, Toyota T, Iwata Y, Suzuki K, Sugiyama T, Tsujii M, Yoshikawa T, Mori N.: Protocadherin alpha (*PCDHA*) as a novel susceptibility gene for autism. *J Psychiatr Neurosci* (in press)　【遺伝学】　[5.34]

7. Iwata K, Izumo N, Matsuzaki H, Manabe T, Ishibashi Y, Ichitani Y, Yamada K, Thanseem I, Anitha A, Vasu MM, Shimmura C, Wakuda T, Kameno Y, Takahashi T, Iwata Y, Suzuki K, Nakamura K, Mori N.: Vldlr overexpression causes hyperactivity in rats. Mol Autism. 3(1):11, 2012【精神医学】[5.33]

8. Shimmura C, Suzuki K, Iwata Y, Tsuchiya KJ, Ohno K, Matsuzaki H, Iwata K, Kameno Y, Takahashi T, Wakuda T, Nakamura K, Hashimoto K, Mori N.: Enzymes in the glutamate-glutamine cycle in the anterior

cingulate cortex in postmortem brain of subjects with autism. Mol Autism. 2013 Mar 26;4(1):6. 【児童精神医学】[5.30]

9. 森則夫 :【発達障害とアタッチメント障害】精神障害の予防は可能か?自閉症・統合失調症の早期診断と早期介入. 小児の精神と神経, 52(2): 116-124, (2012.06) [-]

10. 森則夫 : 子どものこころを考える（分子脳機能から発達障害まで）自閉症のPET研究. 脳21. 15(2): 222-223, (2012.04) [-]

11. 辻井正次、望月直人、中島俊思、高柳伸哉、野田航、野村和代、大嶽さと子、伊藤大幸 : 福島県の学校における子どものこころの支援(1)―“こころの教育”プログラムの実践, 中京大学現代社会学部紀要, 第6巻, P 137～P 145, 【心理学】[-]

12. 中島俊思、伊藤大幸、谷伊織、林陽子、藤田知加子、望月直人、瀬野由衣、染木史緒、大西将史、辻井正次 : 共著「日本語版Strengths and Difficulties Questionnaireの構成概念妥当性の検証：1郊外市の全数コホートデータを用いた検討, 」平成24年7月. 臨床精神医学・41・P911-P924. 【臨床精神医学】[-]

13. 中島俊思、岡田涼、松岡弥玲、谷伊織、大西将史、辻井正次 : 共著「発達障害児の保護者における養育スタイルの特徴, 」平成24年9月 発達心理学研究・23・P264-P275. 【心理学】[-]

14. 中島俊思、野田航、辻井正次 : 共著「乳幼児健診における発達障害の客観的スクリーニング方法導入の意義と可能性」, 平成25年1月, 月刊地域保健, 東京法規出版・1・P49-P61. [-]

15. 中島俊思、大西将史、伊藤大幸、野田航、望月直人、高柳伸哉、染木史緒、大嶽さと子、瀬野由衣、林陽子、辻井正次 :「３歳児健診における保健師によるPARS短縮版活用の可能性と課題」. 共著平成25年3月.小児の精神と神経・53・[-]

16. 中島俊思、伊藤大幸、大西将史、高柳伸哉、大嶽さと子、染木史緒、望月直人、野田　航、林陽子、瀬野由衣、辻井正次 : 3歳児検診における広汎性発達障害児早期発見のためのスクリーニングツール　PARS短縮版導入の試み, 精神医学　第54巻P.911～P.914, 2012年, 【精神医学】[-]

17. 伊藤大幸、谷伊織、行廣隆次、内山登紀夫、小笠原恵、黒田美保、稲田尚子、萩原拓、原幸一、岩永竜一郎、井上雅彦、村上隆、染木史緒、中村和彦、杉山登志郎、内田裕之、市川宏伸、田中恭子、辻井正次 : 日本版Vineland-II適応行動尺度の開発：不適応行動尺度の信頼性・妥当性に関する報告. 精神医学, 54, 889-898. 2012. 【心理測定学】[-]

18. 伊藤大幸、平島太郎、萩原拓、岩永竜一郎、谷伊織、行廣隆次、内山登紀夫、小笠原恵、黒田美保、稲田尚子、原幸一、井上雅彦、村上隆、染木史緒、中村和彦、杉山登志郎、内田裕之、市川宏伸、辻井正次 : 日本版感覚プロフィールの標準化 : 信頼性および標準値の検討. 精神医学. 印刷中. 【心理測定学】[-]

19. 伊藤大幸、望月直人、中島俊思、瀬野由衣、藤田知加子、高柳伸哉、大西将史、大嶽さと子、岡田涼、辻井正次 : 保育記録による発達尺度（NDSC）の構成概念妥当性 : 尺度構造の検討と月齢および不適応問題との関連. 発達心理学研究. 印刷中. 【精神病理学】[-]

20. 伊藤大幸、田中善大、高柳伸哉、望月直人、染木史緒、野田航、大嶽さと子、中島俊思、原田新、辻井正次 : 保育記録による発達尺度改訂版（NDSC-R）の開発 : 信頼性および妥当性の比較. 精神医学, 55, 263-272. 2013. 【精神病理学】[-]

21. 伊藤大幸、田中善大、高柳伸哉、大嶽さと子、原田新、中島俊思、野田航、染木史緒、望月直人、辻井正次 : 保育記録による発達尺度改訂版（NDSC-R）の標準化 : 月齢区分ごとの標準値およびカットオフ値の検討. 精神医学. 印刷中. 【精神病理学】[-]

22. 髙柳伸哉、伊藤大幸、大嶽さと子、野田航、大西将史、中島俊思、望月直人、染木史緒、辻井正次：小中学校における欠席行動と抑うつ，攻撃性との関連，臨床精神医学，第42巻第7号，P.925～P.932，2012年，【精神医学】[-]

23. 髙柳伸哉、伊藤大幸、野田航、田中善大、大嶽さと子、染木史緒、原田新、中島俊思、望月直人、辻井正次：小中学生における欠席行動と教師評定による学校適応との関連. 精神医学, 55, 355-362. 2013. 【精神病理学】[-]

24. 野田航、伊藤大幸、原田新、中島俊思、髙柳伸哉、染木史緒、田中善大、大嶽さと子、望月直人、辻井正次：小中学生を対象とした日本語版Strengths and Difficulties Questionnaire教師評定フォームの標準化と心理測定学的特徴の検討：単一市内全校調査を用いて，臨床精神医学　第42巻2号, P. 247～255, 【精神医学】[-]

25. 野田航、伊藤大幸、藤田知加子、中島俊思、瀬野由衣、岡田涼、林陽子、谷伊織、髙柳伸哉、辻井正次：共著「 日本語版Strengths and Difficulties Questionnaire 親評定フォームについての再検討：単一市内全校調査に基づく学年・性別の標準得点とカットオフ値の算出」平成24年4月　臨床精神医学・54・P383-P391. 【精神医学】[-]

26. 野田航、伊藤大幸、原田新、中島俊思、髙柳伸哉、染木史緒、田中善大、大嶽さと子、望月直人、辻井正次：日本語版Strengths and Difficulties Questionnaire自己評定フォームの信頼性・妥当性の検討. 臨床精神医学, 42, 119-127. 2013. 【精神病理学】[-]

27. 野田航、伊藤大幸、中島俊思、大嶽さと子、髙柳伸哉、染木史緒、原田新、望月直人、田中善大、辻井正次：小中学生を対象とした日本語版Strengths and Difficulties Questionnaire教師評定フォームの標準化と心理測定学的特徴の検討：単一市内全校調査を用いて. 臨床精神医学. 印刷中. 【精神病理学】[-]

28. 野田航：発達障害者支援における認知行動療法：障害特性の理解と支援の基本スタンス. 「知的障害・発達障害のある人への支援」愛知県知的障害者福祉協会研究紀要, 17, 36-38. 2012 [-]

29. 野田航：性差に関連した海外の文献レビュー〔特集 ： 発達障害とジェンダー/男の生き方・女の生き方と自閉症スペクトラムであること〕. アスペハート, 30, .16-21. 2012 [-]

30. 大嶽さと子、伊藤大幸、染木史緒、野田航、林陽子、中島俊思、髙柳伸哉、大西将史、瀬野由比、岡田涼、辻井正次：一般中学生における自傷行為の経験および頻度と抑うつの関連：単一市内全校調査に基づく検討　精神医学、第54巻（7）：673-680，2012　[-]

インパクトファクターの小計　［47.34］

B．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Thanseem I, Anitha A, Nakamura K, Suda S, Iwata K, Matsuzaki H, Ohtsubo M, Ueki T, KatayamaT,Iwata Y, Suzuki K, Minoshima S, Mori N.: Elevated transcription factor Sp1 in autism brains alters the expression of autism candidate genes. Biol Psychiat 71:410-418; 2012【精神医学】(Equal contribution with 1st author) [Genetics and Molecular Biology] [8.28]

2. 中村和彦、大西将史、内山敏、竹林淳和、二宮貴至、鈴木勝昭、辻井正次、森則夫：【おとなのADHD臨床I】おとなのADHDの疫学調査. 精神科治療学, 28(2): 155-162, (2013.02) [-]

3. 望月洋介、星野良一、井上淳、大隅香苗、後藤知子、大城将也、高貝就、岩田泰秀、森則夫：重症強迫性障害の症例に対する治療的関与の工夫曝露反応妨害法と修正森田療法併用の治療効果についての検討. 日本森田療法学会雑誌, 23(2): 143-154, (2012.10). [-]

インパクトファクターの小計　［8.28］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Takahashi S, Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Suzuki K, Mori N, Takei N; HBC Study Team. Psychosocial determinants of mistimed and unwanted pregnancy: the Hamamatsu Birth Cohort (HBC) study. Matern Child Health J. 16(5):947-55, 2012【精神医学】[2.24]

2. Watanabe T, Yahata N, Abe O, Kuwabara H, Inoue H, Takano Y, Iwashiro N, Natsubori T, Aoki Y, Takao H, Sasaki H, Gonoi W, Murakami M, Katsura M, Kunimatsu A, Kawakubo Y, Matsuzaki H, Tsuchiya KJ, Kato N, Kano Y, Miyashita Y, Kasai K, Yamasue H.: Diminished medial prefrontal activity behind autistics social judgments of incongruent information. PLoS One **7**:e39561, 2012 [4.09]

3. Larsen JI, Andersen UA, Becker T, Bickel GG, Bork B, Cordes J, Frasch K, Jacobsen BA, Jensen SOW, Kilian R, Lauber C, Mogensen B, Nielsen JA, Rössler W, Tsuchiya KJ,: Uwakwe R, Munk-Jørgensen P.:Cultural diversity in physical diseases among patients with mental illness. Australian and New Zealand Journal of Psychiatry 47(3): 250-258, 2013 [2.92].

4. Frasch K, Larsen JI, Cordes J, Jacobsen B, Wallenstein Jensen SO, Lauber C, Nielsen JA, Tsuchiya KJ, Uwakwe R, Munk-Jørgensen P, Kilian R, Becker T. Physical illness in psychiatric inpatients: Comparison of patients with and without substance use disorders. International Journal of Social Psychiatry, in press [1.15].

5. Aoki Y, Abe O, Yahata N, Kuwabara H, Natsubori T, Iwashiro N, Takano Y, Inoue H, Kawakubo Y, Gonoi W, Sasaki H, Murakami M, Katsura M, Nippashi Y, Takao H, Kunimatsu A, Matsuzaki H, Tsuchiya KJ, Kato N, Kasai K, Yamasue H.: Absence of age-related prefrontal NAA change in adults with autism spectrum disorders. Translational Psychiatry 2:e178, 2012 [-].

6. 内山敏、大西将史、中村和彦、竹林淳和、二宮貴至、鈴木勝昭、辻井正次、森則夫：日本における成人期ADHDの疫学調査－Adult ADHD Self Report Scale-Screener (ASRS-Screener) 陽性群の特長について－. 子どものこころと脳の発達 3: 23-33, 2012.【精神医学】[-]

7. 内山敏、大西将史、中村和彦、竹林淳和、二宮貴至、鈴木勝昭、辻井正次、森則夫：日本における成人期ADHDの疫学調査－成人期ADHDの有病率について－. 子どものこころと脳の発達 3: 34-42, 2012.【精神医学】[-]

8. 和久田学、櫻井典啓、土屋賢治、鈴木勝昭：行動上の問題に関わる危険因子を抱えた子どもに働く防御因子の探索－科学的根拠に基づいた支援のために－. 子どものこころと脳の発達 3: 43-51, 2012.【精神医学】[-]

9. 瀬野由衣、岡田涼、谷伊織、大西将史、中島俊思、望月直人、辻井正次：共著「DCDQ日本語版と保護者の養育スタイルとの関連」平成24年6月 小児の精神と神経・52・P149-P156.

10. 大西将史、大西彩子、谷伊織、松岡弥玲、中島俊思、望月直人、藤田知加子、宮地泰士、吉橋由香、神谷美里、野村香代、辻井正次：共著「教師評定による中学生用学校適応尺度の開発」平成24年9月、小児の精神と神経・52・P223-P234. [-]

11. 梅田亜沙子、伊藤大幸、岩永竜一郎、萩原拓、平島太郎、谷伊織、行廣隆次、大西将史，内山登紀夫、小笠原恵、黒田美保、稲田尚子、原幸一、井上雅彦、村上隆、染木史緒、中村和彦、杉山登志郎、内田裕之、市川宏伸、辻井正次：日本版青年・成人感覚プロフィールの標準化：信頼性および標準値の検討. 臨床精神医学. 印刷中. 【心理測定学】[-]

12. 行廣隆次、伊藤大幸、谷伊織、平島太郎、安永和央、内山登紀夫、小笠原恵、黒田美保、稲田尚

子、萩原拓、原幸一、岩永竜一郎、井上雅彦、村上隆、染木史緒、中村和彦、杉山登志郎、内田裕之、市川宏伸、田中恭子、辻井正次：日本版Vineland-II適応行動尺度の開発：適応行動尺度の測定精度の検討．精神医学．印刷中．【心理測定学】[-]

13. 田中善大、野田航：自閉症，アスペルガー症候群のある人のこだわり行動との楽しいつきあい方〔特集 ：こだわりの上手な対処法〕．アスペハート，31，64-71．2012 [-]

インパクトファクターの小計　［IF：10.40］

（２－１）論文形式のプロシーディングズ

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 松本かおり、成宮牧子：産後抑うつの早期発見と早期支援のための地域連携システムの確立ファイザーヘルスリサーチ振興財団研究助成論文集、107-111．[-]

2. 松本かおり、土屋賢治：産後抑うつの早期発見と早期支援のための地域連携システムの確立,大和証券ヘルス財団 研究業績集,35, 78-82[-]

3. 松本かおり、土屋賢治：発達障害児の早期療育へ繋げる親子支援の在り方,明治安田こころの健康財団 研究助成論文集、47、110－119[-]

インパクトファクターの小計　［0.00］

（３）総　　説

A．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 武井教使：統合失調症は軽症化しているか．こころの科学(Human Mind)　March; 168(3): 71-76, 2013　[-]

2. 辻井正次、望月直人、髙柳伸哉：子育て支援として，地域で保育士がペアレントトレーニングを実施する，月刊地域保健，第44巻第1号，P. 42～48，【保健福祉】[-]

3. 鈴木勝昭、杉山登志郎：自閉症スペクトラムと脳. Brain Medical 24: 309-316, 2012.

4. 松本かおり、伊藤大幸、小笠原恵、（他11名）：医療・福祉機関における発達障害に関するアセスメントツールの利用実態に関する調査.精神医学（投稿済）[-]

5. 松本かおり：Autism Spectrum Disorders (ASD)の早期兆候：Hamamatsu Birth Cohort (HBC)Studyからの展望．精神科,22(4)435-440.2013. [-]

6. 松本かおり：医学・心理学領域での発達障害の研究と展望：7. ADHD (海外)．発達障害年鑑―日本発達障害ネットワーク(JDD ネット)年報VOL.4、明石書店[-]

7. 野田航：性差に関連した海外の文献レビュー〔特集 ： 発達障害とジェンダー/男の生き方・女の生き方と自閉症スペクトラムであること〕．アスペハート，30. 16-21．2012 [-]

インパクトファクターの小計　［0.00］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. 伊熊正光、鈴木勝昭、土屋賢治、中村和彦、辻井正次、森則夫：高機能自閉症スペクトラム障害者における脳内コリン系の異常．子どものこころと脳の発達 3:17-22, 2012. [-]

インパクトファクターの小計　［0.00］

（４）著　　書

Ａ．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 土屋賢治、黒田美保、稲田尚子：自閉症診断面接改訂版、日本語版．東京：金子書房、2013.

2. 松本かおり：子どものこころはどのように遅れを示すのか（仮）、中村和彦 監修、最新子どものこころの医学、金芳堂、執筆中

3. 松本かおり、伊藤大幸：アンケート調査による実態、辻井正次 監修、福祉現場に活かすアセスメントツール使用のガイドライン（仮）、金子書房、印刷中

4. 中島俊思：はじめの一歩だよ―みんなでサポート編―，単著 平成24年4月17日 助成日本財団，特別非営利活動法人アスペ・エルデの会

5. 中島俊思：発達障害者支援における認知行動療法，第4章，認知行動療法をＡＳＤ児に適応するための工夫，共著.平成24年11月.一般社団法人　愛知県知的障害者福祉協会、ステップ・バイ・ステップ，研究紀要・17・P45-P49.

6. 望月直人、辻井正次：対人専門職のための発達障害者支援ハンドブック第6章　実践事例（1）－さまざまな支援を行う各専門職の立場から16－NPO法人の視点から　～NPO法人アスペ・エルデの会の活動から，P122～P125，金剛出版【社会福祉】

7. 望月直人etc,：すすめステップアップグループ，　特定非営利法人アスペ・エルデの会

8. 伊藤大幸、野田航：ASDの認知・神経心理学 (分担執筆). 日本発達障害ネットワーク (JDDネット) (編) 発達障害年鑑： 日本発達障害ネットワーク (JDDネット) 年報Vol. 4. (pp. 44-48). 東京：明石書店. 2012

Ｃ．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Kaneko H, Yoshikawa T, Ito H, Nomura K, Okada T Honjo S: Near-Infrared Spectroscopic Assessment of Haemodynamic Activation in the Cerebral Cortex - A Review in Developmental Psychology and Child Psychiatry. Theophanides T (Ed.) Infrared Spectroscopy - Life and Biomedical Sciences. InTech. pp. 151-164, 2012【認知神経科学】

（５）症例報告

Ａ．筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 辻井正次、望月直人、中島俊思、髙柳伸哉、野田航、野村和代、大嶽さと子、伊藤大幸：福島県の学校における子どものこころの支援(1)―“こころの教育”プログラムの実践―　中京大学現代社会学部紀要，6：137-145，2012. [-]

2. 野田航、髙柳伸哉、望月直人、中島俊思：発達障害者支援における認知行動療法　愛知県知的障害者福祉協会研究紀要，17：36-49，2012. [-]

3. 辻井正次、望月直人、髙柳伸哉：子育て支援として，地域で保育士がペアレントトレーニングを実施する　月刊地域保健，44（1）：42-48，2013. [-]

インパクトファクターの小計　　［0.00］

Ｂ．筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 和久田智靖、栗田大輔、髙貝就、岩田泰秀、森則夫：作話に基づいて放火に至った統合失調症の1症例. 精神科20(5): 529-534, 2012.【精神科】[-]

2. 栗田大輔、和久田智靖、髙貝就、高橋幸利、森則夫：抗NMDA受容体脳炎の後，複雑な経過を辿った高機能自閉性障害の一例、子どものこころと脳の発達、3、106-112、2012、【精神医学】、[-]

インパクトファクターの小計　［0.00］

C．筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

1. Takagai S, Nakasato K, Suzuki K, Kasai E, Isogai S, Morimoto S, Mori N.: Improvement in intractable tardive dystonia in bipolar disorder after aripiprazole treatment: a case report. J Clin Psychopharmacol. 2012 Aug;32(4):563-4, 2012 【精神医学】 [4.10]

インパクトファクターの小計　［IF：4.10］

4　特許等の出願状況

	平成 24 年度
特許取得数（出願中含む）	2 件

1. 登 録 番 号: 2013-030686
   出 願 名 称: 自閉症診断支援方法およびシステム並びに自閉症診断支援装置
   発　明　者: 森則夫、鈴木勝昭、土屋賢治、新村千江、桜井敬久、徳谷恵樹
   出　願　人: 国立大学法人 浜松医科大学
   登　録　日: 2013 年 2 月 20 日
2. 登 録 番 号: PCT/JP2013/056919
   出 願 名 称: 自閉症診断支援方法およびシステム並びに自閉症診断支援装置
   発　明　者: 森則夫、鈴木勝昭、土屋賢治、新村千江、桜井敬久、徳谷恵樹
   出　願　人: 国立大学法人 浜松医科大学
   登　録　日: 2013年3月13日

5　医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 24 年度	
（1）文部科学省科学研究費	10 件	(2,750 万円)
（2）厚生労働科学研究費	1 件	(　0 万円)
（3）他政府機関による研究助成	2 件	(2,032 万円)
（4）財団助成金	3 件	(3,200 万円)
（5）受託研究または共同研究	1 件	(3,900 万円)
（6）奨学寄附金その他（民間より）	0 件	(　0 万円)

（1）文部科学省科学研究費

1. 武井教使：基盤研究(A)一般．自閉症の予測兆候及び低出生体重と社会認知障害との関連研究を主とした縦断的疫学研究．平成 22-24 年、590 万円.

2. 武井教使：挑戦的萌芽研究．自閉症の予測兆候及び低出生体重と社会認知障害との関連研究を主とした縦断的疫学研究．平成 22-24 年、290 万円

3. 鈴木勝昭：基盤研究(B)、自閉症の脳内コリン系－PET による検討（H22－24 年度）、200 万円.

4. 鈴木勝昭：挑戦的萌芽研究、『T リンパ球機能不全仮説』に基づくうつ病発症リスクのスクリーニング法の開発（H23－24 年度）、130 万円

5. 松本かおり：基盤 C、出生コホート研究に拠る母乳のアレルギー疾患発症抑制効果の検討、2012－2015, 430 万

6. Anitha A.Pillai : 基盤研究（C)自閉症におけるミトコンドリア障害の分子メカニズム,平成 23 年-25 年、420 万円

7. 中島俊思：若手 B 就学前の低出生体重児母子の地域支援」2011 年度～2013 年度,50 万円

8. 伊藤智大：若手研究（B）. 自閉症者の愛着感情、道徳感情およびユーモアの特異性に関する機能的脳画像研究. H24～H26、110 万円.

9. 高柳伸哉：平成 24 年度科学研究費研究活動スタート支援, 自閉症スペクトラム児の精神的健康と適応に関連するプロテクティブ要因の縦断的検討, 平成 24 年 9 月～平成 26 年 3 月、130 万円

10. 小俣圭：科研費基盤(C),自閉症におけるデフォルトモードネットワークの破綻とその物質的背景、2012 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日、400 万円

（２）厚生労働科学研究費

1. 鈴木勝昭：厚生労働省科学研究費補助金障害者対策総合研究事業 #H24-精神、一般-010「成人期以降の発達障害者の相談支援・居住空間・余暇に関する現状把握と生活適応に関する支援についての研究」、(H24－26 年度)、分担、（代表：辻井正次、9,240 千円）.

（３）他政府機関による研究助成

1. 武井教使：Investigator Award provided by NARSAD（研究支援財団）, USA. “Neuroimaging and Genetic Studies to Elucidate the Molecular Mechanism of Serotonergic Dysfunction in Autism” 2012.10 月～2014.3 月末, $50.000US.

2. 辻井正次：ＪＳＴ社会技術研究開発事業, 平成 21 年度～24 年度, 「犯罪から子どもの安全　被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」, 1,645 万円

（４）財団助成金

1. 土屋賢治：アステラス病態代謝研究会, 自閉症スペクトラム障害の病態理解と早期発見法開発, H23-24 年・1 年間、総額 100 万円

2. 土屋賢治：財団法人 大和証券ヘルス財団, 両親の年齢と子どもの発達, H23-24 年, 主任・1 年間：100 万円

3. 鈴木勝昭：公益財団法人武田科学振興財団平成 24 年度特定研究助成「自閉症の病態研究と新たな診療技法（診断・予防・治療）の開発」、（H24-26）、代表、3,000 万円.

（５）受託研究または共同研究

1. 独立行政法人科学技術振興機構　脳科学研究戦略推進プログラム（精神・神経疾患の克服を目指す脳科学研究（健康脳））＜課題F＞, 自閉症の病態研究と新たな診療技法(診断・予防・治療)の開発,・H23 年 10 月～H28 年度(5 年間)：3,900 万円, 研究代表者：精神医学　森則夫）

2. JST 社会技術研究開発 研究啓発成果実装支援プログラム，発達障害の子どもへの早期支援のための『気づき』・診断補助手法の実装（分担・4 年間:2,000 万円，研究代表者：大阪大学大学院、片山泰一）

7 学会活動

	国際学会	国内学会
（1）特別講演・招待講演回数	1 件	0 件
（2）シンポジウム発表数	1 件	12 件
（3）学会座長回数	0 件	0 件
（4）学会開催回数	0 件	0 件
（5）学会役員等回数	0 件	0 件
（6）一般演題発表数	10 件	

（1）国際学会等開催・参加

2）国際学会・会議等における基調講演・招待講演

1. Tsuchiya KJ, Matsumoto K, Takei N.: Measuring early courses of autism: a challenge of Hamamatsu Birth Cohort Study (HBC Study): Challenges and Pitfalls of Multi-Site Collaboration in International Autism Environmental Epidemiology Studies [Symposium]. The 24th Annual Conference, International Society for Environment Epidemiology, Columbia, SC, August 26-30, 2012.

3）国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Suzuki K, Mori N.:Positron Emission Tomography in Autism Spectrum Disorders.
The 11th Biennial Meeting of the Asian Pacific Society for Neurochemistry, Oct 2012 (Kobe, Japan).

5）一般発表

ポスター発表

1. Iwata K., Matsuzaki H., Takei N., Mori N.: Alteration of the expression balance of hnRNP C1 and C2 changes the expression of myelination- and schizophrenia-related genes in the human neuroblastima cell line. 3rd Schizophrenia International Research Society Conference. Florence, Italy. April 14-18, 2012.

2. Wakuda T., Iwata K., Suzuki K., Takei N., Mori N.: Alteration of several schizophrenia candidate genes expression in medial prefrontal cortex in perinatal apsyxia rodent model. 3rd Schizophrenia International Research Society Conference. Florence, Italy. April 14-18, 2012.

3. Yoshihara Y, Sugihara G, Ishizuka A, Yogo H, Nakamura K, Sugiyama T, Matsumoto K, Tsuchiya KJ, Suzuki K, Takei N, Tsujii M, Mori M.:Glutamate dysfunction in the basal ganglia of autism spectrum disorders: an MRS study. The 11th International Meeting for Autism Research, Toronto, May 17-19, 2012.

4. Mochizuki N, Ohnishi M, Nakajima S, Takayanagi N, Noda W, Nomura K, Ito H Sugiyama, T, Tsujii,M, : The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facilities in Japan (1): The examination of the psychiatric disorders and childhood adversities, 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, 2012, University of Roehampton, London. July, 2012.

5. Nakajima S, Itou, H Ohnishi M, Mochizuki N, Noda W, Nomura K, Takayanagi N, Sugiyama T, Tsujii

M, : The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facility in Japan (2): PDD tendency, ADHD tendency, and adaptive behavior, 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, 2012, University of Roehampton, London. July, 2012

6. Ohnishi M, Mochizuki N Nakajima S, Nomura K, Noda W, Takayanagi N, Itou, H, Sugiyama T Tsujii M, The features of juvenile delinquents in a children's self-reliance support facilities in Japan (3): The examination of the IQ profile, 7th International Conference on Child and Adolescent Psychopathology, 2012, University of Roehampton, London, July, 2012.

7. Ito, H., Ohnishi, M., Ohtake, S., Someki, F., Tsujii, M.:Validation of a Japanese Version of the Vineland Adaptive Behavior Scales, Second Edition: Comparison between ASD, ADHD, and Intellectual Disability. International Meeting for Autism Research 2012. 2012. Toronto.

8. Ito H, Yasunaga K, Yamanaka S, Yamauchi H, Okada T, Yoshikawa T, Nomura K, Kaneko H.:The relation between near-infrared spectroscopy signals and skin blood flow (4): A block analysis. The 2nd Asian Conference on Psychology and the Behavioral Sciences. 2012. Kyoto.

9. Noda W., Hagiwara T., Mochizuki N., Iwasaki M., Tsujii M. (2012, May). Effect of a short-term treatment program for anxiety in children diagnosed with autism spectrum disorders. Poster presented at the International Meeting for Autism Research 2012, Toronto, Canada.

10. Noda W., Tanaka-Matsumi J. (2012, May). Relationships among accuracy and fluency of computation skills and mathematics achievement in Japanese school children. Poster presented at the 38th annual convention of the Association for Behavior Analysis International, Seattle, USA

（２）国内学会の開催・参加

3）シンポジウム発表

1. 土屋賢治、松本かおり、武井教使：シンポジウム：日本のコホート研究. 第 1 回日本 DOHaD 研究会, 2012 年 8 月 4 日，東京.

2. 鈴木勝昭:自閉症スペクトラム障害の脳病態の神経生化学的側面. 第35回日本神経科学大会, 2012 年 9 月，名古屋

3. 松本かおり：Autism Spectrum Disorders (ASD)の早期発見を目指して:Hamamatsu Birth Cohort (HBC) Study、日本児童青年精神医学会総会、2012 年 11 月，東京

4. Anitha A.Pillai : “Bioinformatics for Next Generation Sequencing with Applications in Human Genetics” 京都大学 大学院医学研究科 2013 年 1 月 15～19,京都

5. 中島俊思、望月直人、染木史緒、大西将史、辻井正次：学会発表,小児精神神経学会 第 107 回、「人口 8 万人規模X市での乳幼児健診における新スクリーニングツール導入のこころみ —保健師のスキルアップ・心理士からの役割委譲を念頭に—」,平成 24 年 6 月 16 日

6. 伊藤大幸、野田航、田中善大、望月直人、中島俊思、辻井正次：小中学生における抑うつの継時的安定性—縦断的コホート調査に基づく検討—. 日本心理学会第 76 回大会. 2012, 東京.

7. 伊藤大幸：小中学生の発達とメンタルヘルスに関する縦断コホート研究—発達特性と環境要因の相

互作用による思春期の問題行動の予測―. 日本発達心理学会第 24 回大会自主シンポジウム(企画・司会・話題提供). 2013.東京.

8. 高柳伸哉：民間 NPO 法人における HF-ASD 児者の実態把握調査と実証的介入プログラムの試み②～中期介入プログラム、怒りのコントロールプログラムの紹介～ 日本心理臨床学会第 31 回秋季大会, 2012 年 9 月, 愛知学院大学.

9. 野田航：児童自立支援施設に在園する非行少年に対する適応支援プログラム. 日本行動分析学会第 30 回大会自主企画シンポジウム「ソーシャル・スキルズ・トレーニングの最先端：実践現場でのプログラムの開発と評価」話題提供.(発表論文集 18)2012 年 9 月, 高知

10. 野田航：「計算する」行動の流暢性を伸ばす. 日本特殊教育学会第 50 回大会自主シンポジウム「学校現場で, 応用行動分析を活用して「読む」「書く」「理解する」「計算する」行動を支援する」話題提供.(発表論文集 101) 2012 年 9 月, 茨城.

11. 野田航：抑うつ・攻撃性と問題行動との関連. 日本発達心理学会第 24 回大会自主シンポジウム「小中学生の発達とメンタルヘルスに関する縦断コホート研究：発達特性と環境要因の相互作用による思春期の問題行動の予測」話題提供. 2013 年 3 月, 東京.

12. 小俣圭：覚醒と傾眠間における状態遷移と脳活動：EEG-fMRI 同時計測、日本睡眠学会、2012 年 6 月, 横浜

8　学術雑誌の編集への貢献

	国　内	外　国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	7 件

（2）外国の学術雑誌の編集

Takei N：国際専門誌(peer-review journal)の編集委員

1. *British Journal of Psychiatry* [IF:6.619] 誌の editorial board member
2. *Psychological Medicine* [IF:6.159] 誌の editorial board member
3. *Schizophrenia Bulletin* [IF:8.800] 誌の editorial board member
4. *European Psychiatry* [IF:2.766] 誌の statistical adviser
5. *Acta Psychiatrica Scandinavica* [IF:4.220] 誌の editorial board member
6. *Journal of Neurodevelopmental Disorders*[IF 3.062]誌の editorial board member
7. *PLOS ON*E [IF:4.092]誌の statistical advisory board member

（3）国内外の英文雑誌のレフリー

1. *Acta Psychiatrica Scandinavica* (DK), Takei N, 1 回,　Tsuchiya KJ 1 回
2. *Biomarkers in Medicine* (UK), Suzuki K, 1 回
3. *BMC psychiatry* (US), Takei N, Tsuchiya KJ, 各 1 回
4. *British Journal of Psychiatry* (UK), Takei N, 1 回
5. IUBMB Life, Suzuki K(UK),　1 回
6. *Journal of Neuroinflammation* (UK) Suzuki K, 1 回
7. PLoS one (US),　Takei N, 3 回, Suzuki K, 2 回
8. *Journal of Autism and Developmental Disorders* (US), Tsuchiya KJ, 1 回
9. *Journal of Epidemiology and Community Health* (UK), Tsuchiya KJ, 1 回
10. *Journal of Obstetric and Gynecology Research* (JPN), Tsuchiya KJ, 2 回
11. *Psychological Medicine* (UK), Takei N, 1 回
12. *Schizophrenia Bulletin* (UK), Takei N, 1 回
13. *International J Soc Psychiatr* (US), Takei N, 1 回

９　共同研究の実施状況

	平成 24 年度
（１）国際共同研究	1 件
（２）国内共同研究	10 件
（３）学内共同研究	2 件

（１）国際共同研究

1. 精神科疾患をもつ患者の身体疾患の有病率調査、デンマーク、ドイツ、イタリアなど。オールボー大学精神科　Povl Munk-Jorgensen 教授（原著論文、C の 4 および 5）

（２）国内共同研究

1. 発達障害の遺伝学的研究、理化学研究所　吉川武男先生、共同研究

2. 発達障害の遺伝学的研究、国立成育医療研究センター　周産期病態研究部　秦健一郎先生、共同研究

3. PET による発達障害のセロトニン仮説の証明、浜松ホトニクス、機器・施設利用による共同研究

4. 発達障害の血清学的研究、千葉大学　橋本謙二先生、共同研究

5. 自閉症診断補助装置の開発、静岡大学工学部システム工学科　海老澤嘉伸教授および大阪大学大学院　片山泰一教授、共同研究

6. 発達障害の早期発見をめざしたコホート研究（対象者収集とデータ解析）、国立成育医療研究センター　こころの診療部　奥山眞紀子先生、共同研究

7. 発達障害の診断法、国立精神神経センター　児童思春期精神保健部　神尾陽子先生、共同研究

8. わが国における Developmental origins of Health and Disease（DOHaD）研究の方向性の検討、国立健康・栄養研究所　栄養教育研究部　瀧本秀美部長および国立保健医療科学院　生活環境研究部　佐田文宏部長、共同研究

9. エコチル調査における調査票の作成について、国立成育医療研究センター　アレルギー科　大矢幸弘科長、情報および技術提供

10. 大規模コホート研究における追跡法の調査、国立保健科学医療院　生涯健康研究部、横山徹爾部長、情報および技術提供

（３）学内共同研究

1. 精神疾患の PET 研究、メディカルフォトニクス研究センター　生体機能イメージング研究室　　尾内康臣教授

2. 発達障害の早期発見のためのコホート研究、産婦人科学講座　金山尚裕・伊東宏晃教授、　精神医学講座　森則夫教授

10　産学共同研究

	平成 24 年度
産学共同研究	1 件

JST 社会技術研究開発　研究啓発成果実装支援プログラム，発達障害の子どもへの早期支援のための『気づき』・診断補助手法の実装（分担・4 年間、主任：大阪大学大学院、片山泰一）。受託、（株）JVC ケンウッド、佐賀市と共同開発、平成 24～27 年度。開発分担金 2000 万円の補助を受け、自閉症の乳幼児期における客観的早期診断を行うためのハードウェア・ソフトウェアの開発と社会実装を行っている。

13　この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

松本かおり：○2012 年 10 月～文科省受託継続的被災地支援：福島県子どもの心のサポートアドバイザーとして学内研究業務に加え、小中高生への心の授業の提供と巡回相談など対外的な活動比重が増加した。

○2012 年 9 月 14 日　第 7 回浜松医科大学シンポジウム　助成研究「ADI-R-JV の信頼性・妥当性検証」成果発表＠浜医

○2012 年 11 月 18 日　HBC-Study 5 周年記念講演会主催
「産後うつについて知ろう」浜松医科大学、多目的ホール

中島　俊思：○被災地支援等で、特に福島県を中心に、スクールカウンセラー派遣事業に積極的に参加：福島県スクールカウンセラー等派遣事業　福島県教育委員会委嘱　子どもの心のサポートアドバイザー
・第一陣（6 月 4 日～6 月 16 日）
・第三陣（9 月 24 日～9 月 30 日）
・第四陣（①11 月 12 日～11 月 16 日、②11 月 26 日～11 月 30 日）
・第五陣（1 月 15 日～1 月 18 日）

○福島県内の小中学校において、メンタルヘルス改善にむけた「こころの授業プログラム」を実施。

○研究フィールドである愛知県大府市では、乳幼児健診、健診後の母子フォローアップ教室、育児支援事業としてのペアレントトレーニングに、臨床心理アドバイザーとして週に１～２日のペースで密にかかわり、地域の医療・療育・教育活動の向上に携わってきた。

望月　直人：○東日本大震災支援の緊急スクールカウンセラー派遣事業の一環で，福島県教育委員会委嘱　福島県心のサポートアドバイザーとして，福島県全地域における巡回相談や心の授業の実施に定期的に従事した。

○ＪＳＴ社会技術研究開発事業，平成 21 年度～24 年度，「犯罪から子どもの安全被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポート・システムの構築」に関するセミナーを開催及び講師として参加。
・浜松家庭裁判所　家裁調査官研修　講師「非行と発達障害」
対象者：家裁調査官、日時：6 月 19 日

・『被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポートシステムの構築』支援者セミナー講師
対象者：発達障害児者支援者，児童相談所職員，教員，司法関係者，医師など，
内　容：「プロジェクト全体からの検討」日時：2 月 13 日、京都、
・『被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポートシステムの構築』支援者セミナー
ワークショップ講師
対象者：発達障害児者支援者，児童相談所職員，教員，司法関係者，医師など，
内　容：「対人スキル支援　ー断り方スキルの支援ー」　日時：2 月 14 日、大阪
・『被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポートシステムの構築』支援者セミナー講師，
対象者：発達障害児者支援者，児童相談所職員，教員，司法関係者，医師など。
内　容：「児童自立支援施設の実態と協働支援について」日時：3 月 4 日、博多
・『被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポートシステムの構築』支援者セミナー
ワークショップ講師
対象者：発達障害児者支援者，児童相談所職員，教員，司法関係者，医師など。
内　容:「対人スキル支援　ー考え方を変えると気持ちも変わるー」日時:3 月 5 日、
広島
・『被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポートシステムの構築』支援者セミナー講師，
対象者：発達障害児者支援者，児童相談所職員，教員，司法関係者，医師など。
内　容：「プロジェクト全体からの検討」日時：3 月 18 日、浜松
・『被害と加害を防ぐ家庭と少年のサポートシステムの構築』支援者セミナー講師，
対象者：発達障害児者支援者，児童相談所職員，教員，司法関係者，医師など。
内　容：「児童自立支援施設における実態調査」日時：3 月 22，23 日、高山

高柳　伸哉：○2011 度に引き続き，被災地支援等で、特に福島県を中心に、スクールカウンセラー派遣事業に積極的に参加：福島県スクールカウンセラー等派遣事業　福島県教育委員会委嘱子どもの心のサポートアドバイザー

・こころの授業，心理教育やメンタルヘルスの基本的な内容を子ども向けに実施，
福島県教育委員会，中学生約 20 名，三島中学校，2012 年 7 月 5 日
・こころの授業，心理教育やメンタルヘルスの基本的な内容を子ども向けに実施，
福島県教育委員会，高校生約 60 名，新地高校，2012 年 9 月 20 日
・心の健康授業、できていることの再発見や気持ちの切り替え方などの基礎的な
心理教育を実施、小学生約 80 名、大府小学校、2012 年 10 月 5 日
・こころの授業，心理教育やメンタルヘルスの基本的な内容を子ども向けに実施，
福島県教育委員会，高校生約 80 名，湖南高校，2012 年 10 月 30 日
・こころの授業，心理教育やメンタルヘルスの基本的な内容を子ども向けに実施，
福島県教育委員会，高校生約 120 名，いわき海星高校，2012 年 11 月 20 日

○東海地方における発達障害児者の当事者団体であるアスペ・エルデの会に東濃支部ディレクターという立場で所属しており、子どもや保護者らへの支援と学生スタッフへの指導を行ってきた。2012 年度は特に対外的な講演会や出前授業の機会が多く，教育研究活動における知見等を社会や地域に還元する活動が比較的多くなった。

○社会技術研究開発事業「犯罪からの子どもの安全」平成 24 年度支援者セミナー「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築」における「被害と加害を防ぐ仮定と少年のサポートシステムの構築―プロジェクト全体からの検討―」講師，施設入所児童の

特徴や福祉の課題と児童への具体的な支援プログラムの紹介, 共催:アスペ・エルデの会, 福祉施設職員や学校教員・地域の保護者約 30 名，福井大学，2013 年 1 月 31 日

○社会技術研究開発事業「犯罪からの子どもの安全」平成 24 年度支援者セミナー「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築」における「発達障害と非行―児童自立支援施設での対人スキル支援―」講師，施設入所児童の特徴や福祉の課題と児童への具体的な支援プログラムの紹介，共催：アスペ・エルデの会，福祉施設職員や学校教員・地域の保護者約 10 名，コラッセふくしま，2013 年 2 月 6 日

○社会技術研究開発事業「犯罪からの子どもの安全」平成 24 年度支援者セミナー「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築」における「発達障害と非行―児童自立支援施設での対人スキル支援―」講師，施設入所児童の特徴や福祉の課題と児童への具体的な支援プログラムの紹介，共催：アスペ・エルデの会，福祉施設職員や学校教員・地域の保護者約 50 名，弘前市総合学習センター，2013 年 2 月 19 日

○社会技術研究開発事業「犯罪からの子どもの安全」平成 24 年度支援者セミナー「被害と加害を防ぐ家族と少年のサポート・システムの構築」における「児童自立支援施設での対人スキル支援―実践ワークショップ―」講師，施設入所児童の特徴や福祉の課題と児童への具体的な支援プログラムの紹介，共催：アスペ・エルデの会，福祉施設職員や学校教員・地域の保護者約 30 名，高山市民文化会館，2013 年 3 月 22 日

野田　　航：○自分の専門である臨床発達心理学や教育心理学の知識や技術を活かし，学校現場や教育・福祉関係者を含む一般を対象とした講演会や講習会等を積極的に実施した。また，児童生徒（大震災の被災地含む）を対象としたメンタルヘルス改善を目的とした授業やストレスマネジメントの講演も行った。

・大府市内の小中学校数校においてメンタルヘルス向上のためのこころの授業を実施
・福島県内の小・中・高等学校数校において，メンタルヘルス向上のためのこころの授業を実施
・2012 年 8 月　愛知県大府市勤労文化会館　大府市内小学校に在籍する児童および保護者を対象とした読み書き学習相談会

14　研究の独創性，国際性，継続性，応用性

武井教使：大学院生の指導に関して。小児発達学研究科大学院生の自らの研究の進捗状況を発表する目的ばかりでなく、他の博士課程院生の研究活動の理解と、批判的吟味の素養が育まれるよう、互いに質疑応答が出来る場を定期的（月 2 回）に設けた。博士課程 1 年目からの参加を促し、研究に早い段階から曝露するよう配慮した。

15　新聞，雑誌等による報道

1. 「支え合う　患者たちの絆〈１９〉あさがおの会」，中日新聞、2012 年 6 月 24 日
2. 米国オンライン速報 Archives of General Psychiatry、2012 年 11 月 26 日
3. 「自閉症の脳内ではミクログリアが過剰に活性化している」、文部科学省記者クラブにて発表、2012 年 11 月 26 日。毎日、共同通信はじめ多数のメディアにて報道された（以下 4~11）。
4. 「脳の免疫細胞過剰に」静岡新聞、2012 年 11 月 27 日
5. 「自閉症の人の脳細胞が過剰作用」中日新聞、2012 年 11 月 27 日
6. 「自閉症 脳内で免疫細胞活性化」毎日新聞、2012 年 11 月 27 日

7. 「自閉症、脳の免疫細胞が過剰に 浜松医大研究チーム」河北新報 web サイト、2012 年 11 月 27 日
8. 「浜松医科大など、自閉症患者の脳内にミクログリア過剰活性-病態解明に光」日刊工業新聞 web サイト、2012 年 11 月 27 日
9. 「自閉症：脳内で免疫細胞活性化 浜松医大など確認、活動抑制で治療に道」毎日 jp web サイト、2012 年 11 月 27 日
10. 「自閉症の人の脳、神経修復関連の細胞増加を確認」読売新聞 web サイト、2012 年 11 月 27 日
11. 「自閉症者の脳内で『ミクログリアが過剰に活性化』」科学新聞、2012 年 12 月 7 日
12. 「震災時に役立つ医の知識　浜松医科大学公開講座　外傷後ストレス障害」、中日新聞、2013 年 1 月 10 日
13. 「揺れる心に道しるべ」福島の子　浜松医科大学が継続支援、中日新聞、2013 年 3 月 6 日